

22. 遠近両用コンタクトレンズの処方例

小玉裕司
小玉眼科医院

●はじめに

遠近両用コンタクトレンズ (CL) にはハードCL (HCL) とソフトCL (SCL) があるが、今回は遠近両用SCLの処方例を紹介する。遠近両用SCLは老視への対策だけでなく、眼精疲労への対策、あるいは白内障術後の調節力欠如への対策としても使用できることを紹介する。

●症例1：遠近両用SCLの老視への処方

59歳，女性，主婦。主訴：遠近両用SCLを使用しているが，近くが見えにくくなった。完全屈折矯正値：RV=0.2(1.5×S-2.00D)，LV=0.2(1.5×S-1.5D)。優位眼：右眼。加入度数：新聞，雑誌を用いて計測し，両眼ともに+2.0D。現在使用中のSCL：ボシユロム社のメダリスト® プレミアマルチフォーカル。右860/-2.25/14.0/HIGH，左860/-1.25/14.0/HIGH)にて両眼遠見視力1.2，両眼近見視力0.5。

処方したSCL：両眼に加入度数のもっとも高いタイプを使用していることから，球面度数と加入度数によっ

て光学径が171通りも用意されている新しいデザインのジョンソン・エンド・ジョンソン社のワンデーアキュビュー® モイスト® マルチフォーカルを試した(図1, 2)。同社推薦の処方手順にのっとり，優位眼が右眼で加入度数が+2.0Dであることから，右眼にMID，左眼にHIGHを選択した。右840/-2.0/14.3/MID，左840/-1.5/14.3/HIGHにて両眼遠見視力1.5p，両眼近見視力0.7を得ており，遠くも近くもよく見えるようになったということであった。このCLは，S面度数は完全屈折矯正値(頂点間補正をしたもの)を用い，加入度数と優位眼からLOWかMIDかHIGHを選択して処方するのが原則である。

●症例2：遠近両用SCLの眼精疲労眼への処方

24歳，女性，事務職。主訴：球面SCLを使用しているが，パソコンを長時間使用する仕事に変わってから眼精疲労，肩こり，頭痛がきつくなった。完全屈折矯正値：RV=0.1(1.2×S-3.75D)，0.05(1.2×S-4.5D)。優位眼：右眼。現在使用中のSCL：ジョンソン・エンド・

図1 ワンデーアキュビュー® モイスト® マルチフォーカルの瞳孔径の違いによる光学部の位置と見え方の影響のイメージ

上段：光学部が瞳孔径より小さい場合は，近くはある程度見えるが，遠くはぼやけて見える。中段：光学部が瞳孔径に一致したときに，初めて遠くも近くもよく見える。下段：光学部が瞳孔径より大きい場合は，遠くはある程度見えるが，近くはぼやけて見える。

光学部に対して瞳孔径が小さいとき

光学部と瞳孔径が同等の大きさのとき

光学部に対して瞳孔径が大きいとき



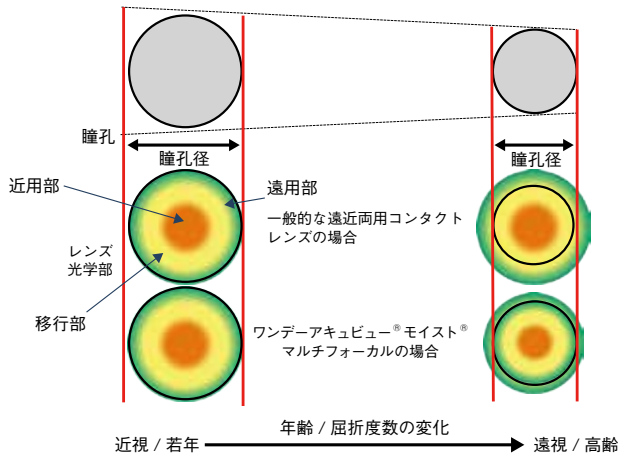


図2 瞳孔径の違いによる光学部設計のイメージ

ワンデーアクユービュー® モイスト® マルチフォーカルには、年齢による加入度数と屈折度を考慮して171種類の光学部径が用意されており、光学部と瞳孔径の一致をめざしている。

ジョンソン社の2ウィークアクユービュー®。右870/-3.25/14.0、左870/-4.0/14.0にて右眼遠見視力1.2、近見視力0.8、左眼遠見視力1.2、近見視力0.8。涙液層破綻時間、綿糸法でドライアイをチェックしたがが正常範囲であった

処方したSCL：パソコンを長時間使用することから、毛様体筋の酷使による眼精疲労と考え、+0.5D加入しているメニコン社の2WEEK メニコンデュオを試した。右860/-4.00/14.5、左860/-4.50/14.5にて両眼ともに遠見視力は1.2、近見視力は0.8で、従来のSCLと視力的には変化はなかったが、眼精疲労、肩こり、頭痛からは解放されたとのことで、現在もこのレンズを継続使用している。

●症例3：遠近両用SCLの白内障術後眼への処方

59歳、女性、医療事務職。主訴：遠くも近くも見た

い。42歳のときに左眼、50歳のときに右眼の白内障手術を受け、術後に、それまで使用していた球面SCLから遠近両用SCLに変更していた。術前に使用していたレンズはジョンソン・エンド・ジョンソン社の2ウィークシュアビュー®（現在は市販されていない）。術後に使用したのは当時チバビジョン社（現在はアルコン社）から市販されていたフォーカス® プログレッシブ（現在市販されていない）であった。完全屈折矯正値：RV=(0.1×IOL) (1.2×IOL OS-4.0D), LV=(0.1×IOL) (1.2×IOL OS-5.0D)。術後に使用していたSCL：フォーカス® プログレッシブ。右860/-3.25/14.0、左860/-4.25/14.0にて、右眼遠見視力は1.0、近見視力は0.7、左眼遠見視力は1.2p、近見視力0.5であった。

新しく処方したレンズ：ポシユロム社からメダリスト® マルチフォーカルが発売されたときにこのレンズに変更した。右900/-4.25/14.5/HIGH、左900/-4.75/14.5/HIGHにて両眼遠見視力1.5p、近見視力1.0を得ており、遠近ともにこのレンズが見やすいとのことで現在も使用中である。白内障術後眼には高加入度数の遠近両用SCLを処方するのがポイントである。

●おわりに

近年、各社から遠近両用SCLが市販されているが、その性能は明らかに進歩しつつある。老視に対する遠近両用SCLの処方も、コツさえつかめば手間も時間もそれほどかからないうえに、患者の満足度は高い。また、事務作業などで眼精疲労を訴える患者には+0.5D加入度数のレンズであれば、遠見視力も損なうことなく処方できるうえ、眼精疲労から解放されて喜んでいただける。白内障手術において、遠近両用IOLがない時代に手術を受けた患者があれば、一度試してみることをお勧めしたい。

一人ひとりに、近くから遠くまで、より自然でクリアな視界を。

個々人の年齢や屈折の状態により瞳孔径は異なります。そんな瞳孔径に最適なレンズ光学部を設計したことで、近くも遠くも自然でクリアな見え方を追求しました。新発想デザインで患者の見え方をサポートするワンデーアクユービュー® モイスト® マルチフォーカル。



ワンデーアクユービュー® モイスト® マルチフォーカル

◎コンタクトレンズは高度管理医療機器です。眼科医による検査・処方をお願いします。特に異常を感じなくても定期検査は必ず受けるようにご指導ください。
◎患者さんがコンタクトレンズを使用する前に、必ず添付文書をよく読み、取扱い方法を守り、正しく使用するようにご指導ください。

ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 ビジョンケアカンパニー 東京都千代田区西神田3丁目5番2号 販売名：ワンデーアクユービュー モイスト 承認番号：21600BZY00408000 ©登録商標 ©J&J KK 2016